

令和2年6月11日

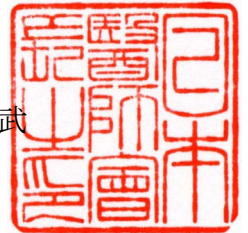
スポーツ庁

長官 鈴木 大地 殿

運動・健康スポーツ施策に関する提言書

日本医師会

会長 横倉 義武



人生100年時代を迎えるにあたり、生涯を通じて健やかに過ごすためには、運動・スポーツを通じて健康増進や健康寿命の延伸を実現することが必要不可欠です。また、今後は、高齢者や有病者などリスクを抱える方、熱中症や感染症への医学的な対策がますます重要になります。しかし、現在、個人の運動実施状況や自治体における取組には差が見られます。

つきましては、健康スポーツ医、かかりつけ医等の医療の専門家が関わった、効果的かつ安心・安全な運動・スポーツの習慣化を国民に広げるため、以下のよう
に提言致します。

記

1. 全世代の国民がライフステージに合わせた運動・スポーツ習慣を確立するための施策を推進する。
2. 人々の運動関連リスクを層別化し、各リスクに応じた運動を推奨する。
3. 地域の運動に関連する施設や医療者、指導者等の情報を見える化した「運動関連資源マップ」を作成し、運動実施者と運動環境（場）・専門家（人）のミスマッチを解消する。
4. かかりつけ医と運動施設・運動指導者等との連携体制（「運動連携パス」）を整備し、人々の運動実施を促進する。
5. スポーツ庁の「運動・スポーツ習慣化促進事業」（医療と連携した地域における運動・スポーツの習慣化の実践）を全国規模で展開する。
6. 競技ごとの熱中症・感染症対策マニュアルを競技団体などと協力して整備する。

以上